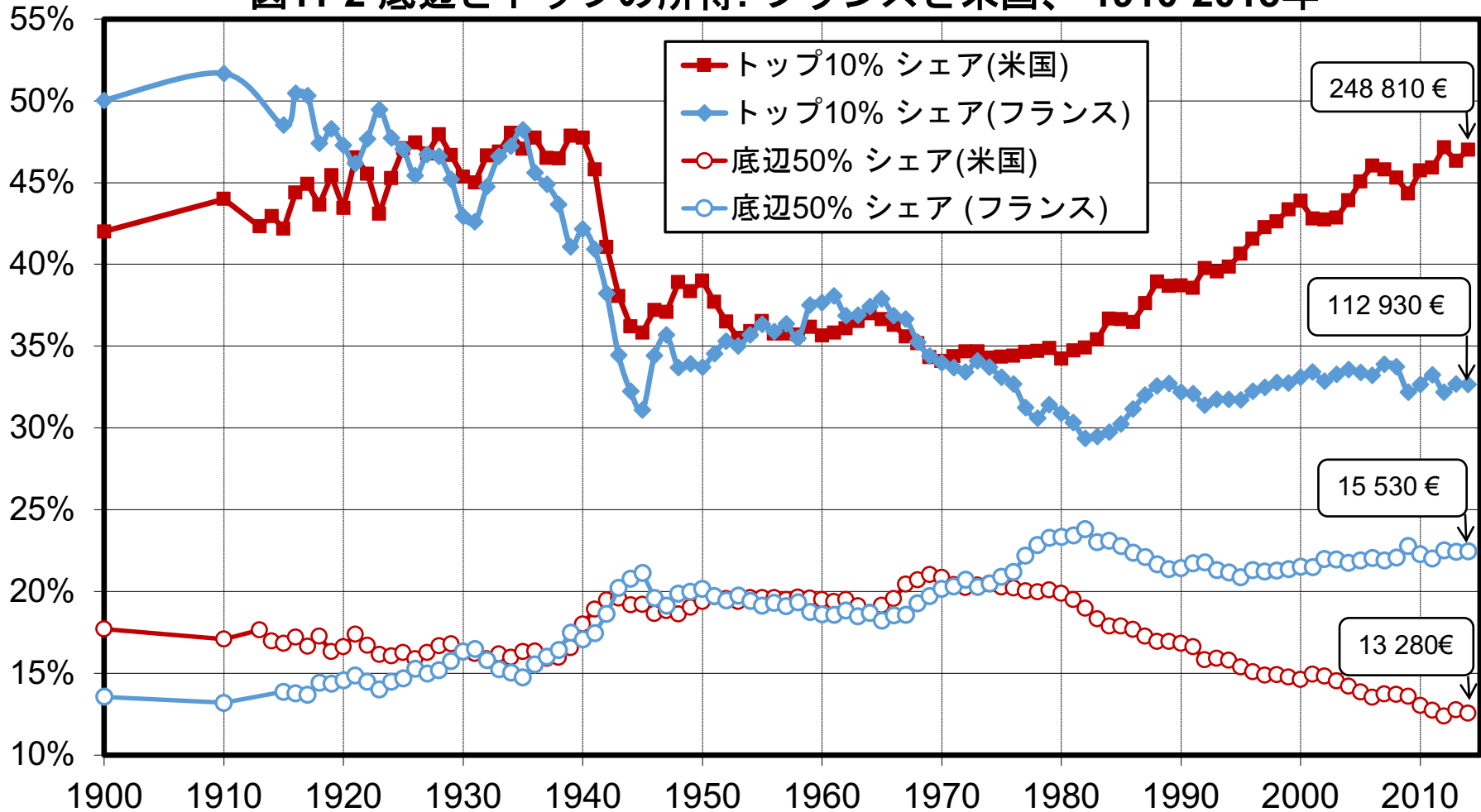


図11-2 底辺とトップの所得: フランスと米国、1910-2015年

国民所得に占める各グループのシェア



解説: 2010-2015年の米国の所得格差が、1900-1910年の水準を上回るのに対し、フランス(そしてヨーロッパ)では減少している。しかしいずれの場合も格差は依然高い。人口規模が底辺50%の5分の1しかないトップ10%が、総所得でより多くの割合を占めている。グラフの所得は各グループの年収を2015年の(購買力平価)ユーロに換算したもの。出所と時系列データ: piketty.pse.ens.fr/ideology 参照。